

## 川崎市の市街地におけるヒナコウモリの保護記録について

高中健一郎\*・平野敦士\*\*

Note on Asian Particolored Bat *Vespertilio sinensis* looked after in urban area of Kawasaki city,  
Kanagawa prefecture

Kenichiro Takanaka\* and Atsushi Hirano\*\*

## はじめに

ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* は日本国内では北海道から九州に分布する中型のコウモリで、暗褐色の体毛に白っぽい長毛が混じって霜降り状に見える特徴を持つ(向山, 2011)。神奈川県では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されており(高桑ほか, 2006)、箱根町で生息が確認されているほか(石原, 1991)、冬眠集団も山北町(山口, 2000)をはじめ、清川村、南足柄市および伊勢原市の建物で確認されている(山口ほか, 2005)。本来は樹洞がねぐらと考えられているが(向山, 2011)、埼玉県(重昆ほか, 2013)や群馬県(大沢ほか, 2014)などで新幹線高架橋の利用、神奈川県(山口・山口, 2022; 味埜ほか, 2022)などでコンクリート建築物の利用も報告されている。

一方、川崎市内のコウモリ類については、アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* とヤマコウモリ *Nyctalus aviator* の2種が確認されているだけで(山本, 1987)、これまでにヒナコウモリの記録はない。今回、川崎市麻生区にて衰弱したヒナコウモリを保護したため、市街地での記録の一例としてここに報告する。

## 撮影記録

1ex., 川崎市麻生区白山4丁目, 1-XI-2025, 平野敦士撮影(図1、図2、図3)

著者のひとり平野は2025年11月1日に川崎市麻生区白山4丁目にあるマンション13階の屋外通路雨水溝にて衰弱したコウモリを発見した。発見した個体は、当日未明の降水により全身が濡れている状態であった(図1)。比較的身近に見られるアブラコウモリよりも大きな体サイズであったことから、種を確認するため、もうひとり著者の高中へ写真を送り、種の確認を行った。当初、高中に送られてきた写真から個体の前腕長が50mm程度であることは確認できたが、種



図1. マンション屋外通路雨水溝で確認されたコウモリ

を同定するために毛が乾いた状態で全身が写っている写真と耳の形を確認できる写真を撮影するよう依頼した。

翌11月2日も同個体は同所から移動していなかったため、人の往来によってコウモリが踏まれないよう平野宅のベランダへと個体を移動した。ベランダでは個体をアクリル水槽に入れ、コウモリがいつでも飛び立てるよう蓋は付けずに解放した状態で放置した。ベランダへ移動後、再度、全身と耳の写真撮影し、高中へ送り、確認した。

再度送られてきた写真から、体毛は暗褐色で白い毛が霜降り状に入っていること(図2)、耳介は幅が広く、先端が丸みのある



図2. 毛が乾いた状態の同個体コウモリ

\*川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館) Kawasaki Municipal Science Museum

\*\*特定非営利活動法人かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation



図 3. マンション屋外通路雨水溝で確認されたヒナコウモリ *Vespertilio sinensis*

三角形で耳珠も短く先端が丸いこと (図 3) が確認できヒナコウモリの特徴を呈していたことから、同個体をヒナコウモリと高中が同定した。

ベランダへ移動後、数日が経過しても同個体は飛び立たず、この間に給餌をしていなかったことから、夢見ヶ崎動物公園へ連絡し、11月6日に個体を持ち込み、保護してもらうことになった。個体を移動する前に、砂糖水を与えると、多少歩く程度の体力が残っていることが確認できた。ヒナコウモリは持ち込んだ翌11月7日には、同個体は体力を回復し、放獣され、無事に飛び立ったと夢見ヶ崎動物公園から連絡があった。

### 今回の記録について

川崎市内でのヒナコウモリの記録は、今回が初記録となる。今回のような市街地でのヒナコウモリの記録については各地で報告されており (重昆, 2012)、川崎市近隣では町田市 (重昆・長岡, 2005)、相模原市 (青木・秋山, 2006)、横浜市 (板橋, 2009) でも同様の記録が報告されている。ヒナコウモリの移動距離については、これまでに最大で約784kmが記録されている (佐藤ほか, 2017)。また、前述したとおりヒナコウモリが新幹線高架橋やコンクリート建築物などの人工建造物を利用していることがわかっている。

これらのことから、今回確認された個体が、本来の生息地から移動してきた個体なのか、川崎市内あるいは川崎市近隣にある人工建造物を利用していた個体なのかは不明である。だが、今回のような記録の蓄積が、今後、絶滅危惧種II類である本種をはじめ、コウモリの保全を検討する上で、その

生態の一端を知る手掛かりとなり、本来の生息地以外での対策にも繋がると考える。

### 謝辞

夢見ヶ崎動物公園の石川真理子氏には、保護したヒナコウモリの受入れから放獣まで状況を知らせていただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

### 引用文献

- 青木雄司・秋山幸也, 2006. 相模原市の住宅地におけるヒナコウモリの保護記録. 神奈川自然誌資料, (27): 41-43.
- 石原龍雄, 1991. 箱根の哺乳類. 35pp. 大涌谷自然科学館, 神奈川.
- 板橋正憲, 2009. 横浜市西区で保護されたヒナコウモリについて. コウモリ通信, 17 (1): 8-9.
- 重昆達也, 2012. 関東地方の市街地で確認された単独のヒナコウモリ. コウモリ通信, 19 (1): 9-10.
- 重昆達也・長岡浩子, 2005. 東京都町田市で保護されたヒナコウモリ. コウモリ通信, 13 (1): 5-7.
- 重昆達也・大沢啓子・大沢夕志・清水孝頼・峯下 耕・向山 満, 2013. 群馬県の新幹線高架橋で見つかったヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の出産哺育コロニーおよび冬季集団. 群馬県立自然史博物館研究報告, (17): 131-146.
- 味埜真理・岩田雅弘・水野安則・森田博信・山口喜盛・渡邊まゆみ, 2022. 秦野市の市街地で新たに記録されたヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の同一建築物での越冬および繁殖コロニーについて. 神奈川自然誌資料, (43): 69-75.
- 向山 満, 2011. ヒナコウモリ. コウモリの会編, コウモリ識別ハンドブック 改訂版, pp. 32-33. 文一総合出版, 東京.
- 大沢啓子・大沢夕志・勝田節子・佐藤顕義, 2014. 埼玉県の新幹線高架におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の越冬期と出産哺育期の分布. 埼玉県立自然の博物館研究報告, (8): 49-52.
- 佐藤顕義・秋葉保夫・作山宗樹・佐々木玲子・高橋 修・峯下 耕, 2017. 標識調査で明らかとなった東北地方におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の生存期間と長距離移動. 森林野生動物研究会誌, 42:

- 37-41.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編), 2006. 神奈川県レッドデータブック生物調査報告書 2006. 442 pp., 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 山口喜盛, 2000. 神奈川県西丹沢で越冬したヒナコウモリ. コウモリ通信, 8 (2): 4-6.
- 山口喜盛・曾根正人・山口尚子・渡辺直子, 2005. 神奈川県で見つかったヒナコウモリの冬眠集団について. 神奈川自然誌資料, (26): 49-51.
- 山口喜盛・山口尚子, 2022. 神奈川県南足柄市で見つかったヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の出産哺育コロニー. 神奈川自然誌資料, (43): 47-52.
- 山本祐治, 1987. 川崎市の哺乳類. 川崎市青少年科学館紀要, (4): 55-58.